

研究主題

「適切な音声による生徒間発話を増大させる ペアワーク・システムの構築」

専門研究員 中学校 外国語科

所沢市立中央中学校 青木 ひかり

I 研究主題設定の理由

新学習指導要領が平成24年度から全面実施されるにあたり、それぞれの学校や各教科では移行措置の取組が始まっている。外国語の指導要領改訂の趣旨としては①「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能を総合的に（バランスよく）指導する②4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する③音声面（「聞くこと」「話すこと」）の指導は小学校段階での一定の素地が育成されていることを踏まえ、指導内容の改善を図ることが挙げられているのではないだろうか。

また、今年度の教育課程説明会では、教育課程指導資料の活用について説明があり、「コミュニケーション能力を統合的に育成する」指導を充実させる具体的な指導例が提示された。指導事例でも、①繰り返しによる指導の充実②指導内容の改善③言語材料から言語活動へ④小中の円滑な接続がキーワードとなっている。更に、今年度の「指導の重点、努力点」でも、授業の工夫改善が提示されている。

本校英語科では、新学習指導要領を見据え、平成19・20年度の関東甲信地区中学校英語教育研究協議会において会場校として研究授業をするチャンスをいただいた。『「話すこと・書くこと」を中心としたコミュニケーション能力の基礎を養う指導と評価の工夫』を研究主題に、研究授業及び研究協議を行い、指導力の向上及び授業の工夫改善に努めた。その成果として、3年生のステップアップテストでは、「書くこと」において市平均を上回るよい結果を得ることができた。全体的に「書くこと」への抵抗感が薄れてきたり、「自分の力で書けた」という達成感を味わったり、「もっと英語で書いてみたい」と意欲的になってきたりした生徒が増えたことも成果の一つである。

「書くこと」だけにとどまらず、「書いたこと」を「話すこと」や「聞くこと」、「読むこと」につなげる活動を工夫し、実践した。しかし、人前で英語を「話すこと」や相手の英語を「聞くこと」を苦手と感じ、活動を嫌がる生徒が多いのが現状であった。そのような生徒の多くはカタカナ発音に慣れてしまい、正しい発音を恥ずかしがる上、正しく発音をすることを嫌う傾向にあった。その結果、カタカナ発音は聞き取れるが、ネイティブの発音が正しく聞き取れず、嫌になってしまい、意欲を無くしてしまう、という悪循環が大きな課題として残ってしまった。

この課題を解決させるためには、生徒の実態にあう指導内容を検討すること、そして授業の工夫改善を行い、指導の充実を図ることが必要と感じた。また、英語教師としての更なる英語力及び指導力の向上を目指し、本主題を設定した。

II 研究の内容と方法

1 生徒の実態の把握

6月に実施したステップアップテストのアンケート結果を見ると、担当学年の3年生で「英語が好きだ」「どちらかといえば好きだ」という生徒が36%、「どちらかというと好きではない」「好きではない」という生徒は59%であることがわかった。また、「授業がよくわかる」「だいたいわかる」生徒は全体の44%、「分からないことが多い」「ほとんど分からない」生徒は29%であった。この結果から見ても、授業の工夫改善は必須事項であることは明らかであった。

更に生徒の悩みに耳を傾けると、「単語がわからない」「単語がわかるけど読めない」「単語はわかるけど語順がわからない」「英語はわかるけど言いたいことがうまく英文にできない」と生徒の理解度によって大きく4つに分類された。

2 指導法及び教材の研究

本研究で直接ご指導いただいた、埼玉大学教授、静哲人先生の『英語授業の心・技・体』及び『英語授業の大技・小技』から、「音声指導」と「ペアワーク」を核にした授業改善のヒントとなるアイディアをたくさんいただき、2冊を参考文献とし、研究を行った。

(1) 適切な音声指導の心構え

まず、生徒にいかに適切な発音を教えるかの前に、教師自らが適切な発音をし、そして生徒の発音が正しいかがわかることが大切である。〈「心・技・体」p. 6〜〉教科書準拠のCDを繰り返し聞くことはもちろん、静先生にも直接発音指導をしていただき、自分自身がゆっくりとていねいに、正しく英語が発音できるよう努めた。特に、r、l、f、v、thなどの英語特有の音や口の形に気を付け、どう聞こえるかカタカナ表記するなど、生徒にとって分かりやすく、発音しやすい指導の工夫を努めた。〈大技・小技p. 32〉また、授業中はどんな場面でも英語を発するときには発音指導を行い、生徒の発音への意識を高めるようにした。

(2) 3強音節使ったチャンツ化 〈「心・技・体」p. 43〜〉

個々の単語の発音や強勢ができるようになって、教科書の本文の音読になると、カタカナ読みや1つずつの単語読みになってしまう。また、意味の区切れや文の強勢がわからず棒読みになってしまう。そこで、本文の音読指導に取り入れたのが「stress-timed rhythm（強勢拍リズム）」である。教科書の本文から「3つの強音節を持つフレーズ」を見つけ出し、チャンツを作り、手拍子しながら繰り返す。この場合、教師自身がいかに関「3つの強音節を持つフレーズ」を見つけ出し、文の理解につなげながら指導するかが、ポイントとなる。同時に使いやすく分かりやすいワークシートを工夫し、単に音読するのではなく、常にリズムを意識して発音できるよう作成した。

(3) 生徒間の発話量を増大させるペアワークと評価の工夫 〈「心・技・体」p. 109〜〉

授業の工夫改善を行う上で考慮したことは、全体での指導をていねいに行い、個人の力をつけ、ペアワークでの生徒間練習の質をいかに高めるかである。ペアワーク中に行う教師の支援、援助及び評価次第で、遊びで終わるのか、正しく習得できるかが決まってくるのではないかと。そこでペアワーク中は生徒の発音に耳を傾け、口元を観察し、きちんとした発音を使って、できているかどうかをその場で確認し、正すようにした。また、練習の成果を具体的に分かりやすく評価できるよう工夫した。

III 実践事例

1 研究授業指導案 I

1. 題材名 Sunshine English Course 3 Program 2 On the Web

2. 題材設定の理由

(1) 生徒観

男子 17 名、女 16 名、計 33 名のクラスである。授業態度は真面目で意欲的であるが、自信を持って英語を話したり、発表したりするなどの積極性に欠ける。英語の授業に臨む姿勢が確立してきたので、授業形態を工夫、改善し、自信を持って、英語の学習に取り組める生徒を育成したい。

(2) 教材観

由紀と武史がブラウン先生と、インターネットについて話している。ウェブサイトアクセスすると、全世界の中学生とつながることができることや、環境や平和について興味や関心を高める取り組みに参加できることを紹介している。

生徒たちにとっても興味・関心が高いインターネットを題材にして、ウェブサイトの紹介やアクセスの仕方そのためにすべきことを語り合う内容は to 不定詞の使用と密接に関わっている。

2 年生で既習の to 不定詞を復習しつつ、It～for/○○to 不定詞、や疑問文＋不定詞の理解と運用を通して、自分の得意、不得意なことや大切なこと等を考える機会としたい。

(3) 指導観

前課の現在完了形と It～for/○○to 不定詞、や疑問文＋不定詞を運用すると、自分自身のことを表現しやすくなると考える。これを「自己紹介」の幅を広げる絶好のチャンスと考え既習の英語も活用して表現し、発表する活動につなげていきたい。

3. 指導計画

時間	主な目標	主な学習活動
1	○It～for/○○to 不定詞の学習 ・ It～for/○○to 不定詞の用法を理解させる。	・ パターンプラクティスや基本的な練習問題に取り組む。
2	○疑問文＋to 不定詞の学習 ・ 疑問文＋to 不定詞の用法を理解させる。	・ パターンプラクティスや基本的な練習問題に取り組む。
3	○不定詞の用法の復習・不定詞の用法を理解させる。 ○Writing の準備 ・ 「自己紹介～3 年生 Version～」の内容、構成を考え、次時の準備をさせる。	・ 小テスト形式やクイズ形式で復習を行う。 ・ 現在完了、It～for/○○to 不定詞、や疑問文＋不定詞を使用して、「自己紹介」を英文で書けるよう次時の準備をする。
4	○Writing 活動 ・ 前時で準備した題材と例文を基に 15 文以上の英文でまとめ、レポートとして提出させる。	・ 前時で準備した題材や例文を基に既習の英語を活用して表現する。
5 本時	○新出単語の導入 ・ 正しく発音と意味を理解させる。	・ ペアワークを取入れ繰り返し発音する。

6	○本文理解及び本文音読 ・発音やイントネーションに気をつけながら、音読させる。	・ペアワークを取り入れ、いろいろな方法で繰り返し音読する。
7 8	○まとめの活動 ・インタビューテスト、音読テスト、文法事項のまとめテストを通して課のまとめをさせる。	・評価をわかりやすくし、生徒が意欲的に取り組みやすいようにする。

4. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① 英単語と英語のチャンツを正しく発音しようと意欲的に取り組む。
- ② 英単語と英語のチャンツを正しく発音できる。

(2) 評価規準

評価の観点	内容のまとまりと評価規準		評価場面
アコミュニケーションへの関心・意欲・態度	S L	①正しく英語を発音しようと意欲的に取り組んでいる。 ②正しい発音ができるよう教師の発音をよく聞いている	・教師による観察 ・プリントへの書き込み
イ表現の能力	S	①英単語や英語のチャンツ、英文を正しく発音できる。	・教師による評価

(3) 展開

過程	学習活動	学習内容	評価規準との関連	指導上の留意点	資料等
Warm Up (5)	1 あいさつ ・教師と生徒	・ Good afternoon. ・ How are you today?	ア S①	・発音に気をつけて、あいさつするよう促す。	
復習 (5)	2 Quick Q&A	・ 1 年生の教科書にある Q&A をペアで質問しあう。	イ S①	・教科書を見ないで、正しい発音でできるよう支援する。	・1 年生の教科書
展開 (25)	3 「英語でいってみたいよう」 (1) 新出単語や英語のチャンツを全体で発音練習する。 (2) ペアワークでお互いが正しい発音でできるよう練習する。	・正しい発音で言えるようよく聞いて練習する。 ・生徒同士で正しく発音できるように繰り返し練習する。	ア S① L① イ S①	・カタカナ英語を言い直させたり、練習の仕方を工夫する。 ・うまく活動できていないペアを支援する。 ・生徒に正しい発音をするよう促す。	・プリント

ま と め (10)	5 発音の評価	・生徒が教師に言われた日本語を英語で正しく発音する。	イ S①	・1人1人の発音を評価し、アドバイスする。	・ワークシート
---------------	---------	----------------------------	------	-----------------------	---------

【ワークシート】 Program 2 英語で言ってみよう！〈「心・技・体 p. 139〜」〉

class() No.() Name ()

No	日本語訳（語数）	英語
1	ウェブ	Web
2	ウェブで（3）	on the Web
3	戻る	return
4	彼は京都から戻った（4）	He returned from Kyoto.
5	he has の略	he's
6	彼は京都に行ったことがある（4）	He's been to Kyoto.
7	ウェブサイト	website
8	いくつかの興味あるウェブサイト（3）	some interesting websites
9	～してくれませんか（2）	Could you ~？
10	～について私たちに話してくれませんか(5)	Could you tell us about？
11	供給する	provide
12	ウェブサイトは供給する(5)	The website provides many things.
13	活動	activity
14	たくさんの活動(4)	a lot of activities
15	招待する	invite
16	KID-ACT は生徒たちを招待する(3)	KID-ACT invites students.
17	全世界の	global
18	全世界の企画(2)	global projects
19	そのような	such
20	平和に（関する）企画のような(4)	such as peace projects
21	環境の	environmental
22	環境に（関する）企画(2)	environmental projects
23	おもしろそう。(2)	Sounds interesting.
24	お手伝いします(4)	I can help you.
25	～への行き方(4)	how to get to ~
26	～をキーボードで打つ(2)	type in ~
27	アドレスをキーボードで打つ(4)	type in the address
28	私たちのリンク(2)	our link
29	きれいな、かわいらしい	
30	写真がきれい。(4)	

＊単語からフレーズへと移行しながら発音練習し、教科書本文の音読につなげられるように作成したが、量が多すぎたため、セクションごとに区切って練習した。

2 静哲人教授による模擬授業の資料【Sunshine English Course 3 Program 6 § 2】

A lot of new songs / are written in Okinawa / every year.
 たくさんの新曲が 沖縄で書かれる 毎年

Many famous musicians and singers / were born there / too.
 多くの有名ミュージシャンと歌手も そこで生まれた

So, / there are a lot of fans of Okinawan music / all over Japan.
 だから、 多くの沖縄音楽ファンがいる 日本中に

They like / the unique melody.
 彼らは好きだ 独特のメロディが

I like "Shimauta" the best / of all the songs / written in Okinawan melody.
 僕は「島唄」が一番好きだ すべての曲の中で 沖縄のメロディで書かれた

The song expresses / a special message / through its words --- a wish for peace.
 その曲は表現している 特別なメッセージを 歌詞を通じて 平和への願いを

○文構造や意味について説明しながら、音読練習をしてくださいました。

○ボクシング、足踏み、散歩など、リズムがとりやすいように工夫してくださいました。

musician	oOo
express	oO
through	O
wish	O

新出単語の指導はわかりやすい
 表記とボクシングのパンチなリズム
 をとりやすく工夫してください
 ました。

こちらは授業で使用できませんでしたが、基本文をマスターするために使います。

songs written in Okinawan melody
 沖縄メロディで書かれた**歌**

books written by Natsume Soseki
 夏目漱石によって書かれた**本**

books written by Kawabata Yasunari
 川端康成によって書かれた**本**

movies made by Miyazaki Hayao
 宮崎駿によって作られた**映画**

2 研究授業指導案Ⅱ

1. 題材名 Sunshine English Course 2 Program 7 Yuki in London

2. 題材設定の理由

(1) 生徒観

男子17名、女16名、計33名のクラスである。授業態度は真面目で意欲的な生徒も多いが、英語に対する苦手意識を持つ生徒や、低学力の生徒もいるという、学力面で差が激しいクラスである。しかし、全体的に根気強く学習に取り組んでいる。

1学期から教科書の音読に力を入れてきた。チャンツを理解し、発音やアクセントに重点を置いて音読できるよう工夫し、生徒同士で「繰り返し取り組むこと」の大切さを実感しながら、苦手意識を克服し、自信を持って英文を音読できるよう努めてきた。

その結果、音読の授業を楽しみにする生徒が増え、また家庭で音読に取り組む生徒がいるなど、意欲的な変容が見られるようになってきた。また、音読活動を通して、「聞く力」「読み取る力」「書く力」の向上にもつながってきている。

(2) 教材観

由紀がロンドンを訪れる際の機内での会話や観光中の会話、また、旅行の感想について述べている。中学生にも人気のある「ハリーポッター」に絡めて、初対面の人と会話を楽しんだり、感想を述べたりしている由紀を通して、自分の興味や関心があることを英語で説明したいという思いを高めたい。

(3) 指導観

間接疑問文や、関係代名詞の主格を使った英文は、音読活動において、チャンツを理解させる、絶好の言語材料と考える。生徒が興味、関心を持って音読活動ができるよう工夫し、生徒同士が協力し合い、教師が適切にアドバイスすることで、生徒の音読の質を高めていきたい。また、繰り返し本文を音読することから、身に付いた英文を使い、自己表現ができるようにしていきたい。

3. 研究主題との関連

「生徒の発話量を増やすペアワークの構築」が、研究テーマである。3年生は、1, 2年時に教科書の本文や単語を定着させる取り組みを行い、表現の基礎を養ってきた。その成果はステップアップの「書く力」が所沢の平均を上回っているという結果から見て取れる。しかし、「聞く力」が伸び悩み、「聞き取ること」に苦手意識を持っている生徒が多かった。そこで、「いかに正しい発音で、いかに多くの英文を聞かせるか」に課題を置くことにした。教科書の音読を生徒同士で繰り返しできるよう、音読の指導や評価を工夫し「聞く力」＝「理解力」の向上につなげていきたい。

4. 指導計画

時間	主な目標	主な学習活動
1 本時 2 3	○各セクションの音読指導 ・単語⇒チャンツ⇒文の順で正しく発音させる。 ・英文の一部が日本語になっている「変換読み」をさせる。	・いろいろな方法で繰り返し発音する。 ・アクセントやリズムに注意して発音する。 ・スムーズでクリアーな発音を目指す。
4	○音読チェック ・教科書本文を正しく音読させる。	・1人1人に音読が教師の前で音読し、チェックを受ける。 ・ペアで音読の練習をしチェックを待つ。
5	○間接疑問文の学習 ・間接疑問文の用法を理解させる。	・パターンプラクティスや基本的な練習問題に取り組む。 ・ペアで活動し、繰り返し発音して基本文を覚える。
6	○関係代名詞（主格）の学習 ・関係代名詞（主格）用法を理解させる。	・パターンプラクティスや基本的な練習問題に取り組む。 ・ペアで活動し、繰り返し発音して基本文を覚える。
7	○まとめの活動 ・間接疑問文、関係代名詞（主格）のまとめをさせる。 ・本文のまとめをさせる。	・プリントを使用してまとめの学習に取り組む。

5. 本時の学習

(1) 本時の目標

- ① §1の本文を正しく音読できる。
- ② 相手が正しく音読しているかどうかわかる。

(2) 評価規準

評価の観点	内容のまとまりと評価規準	評価場面
ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	①意欲的に英語であいさつをしたり、諸活動に取り組んだりしている。 ②意欲的な態度で音読に取り組んでいる。	・教師による観察
ウ 理解の能力	①本文を正しく聞き取ることができる。 ②本文を正しく音読できる。	・プリントへの書込み ・指導計画 4 にて

(3) 展開

過程	学習活動	学習内容	評価 規準 との 関連	指導上の留意点	資料 等
Warm Up (5)	1 あいさつ ・教師と生徒 2 Q&A ・英語で質問 をする。	・ Good morning everyone. ・ How are you today? ・ I' m fine thank you, and you?I' m ～, thank you. ・ Have you read Harry Potter stories? ・ Do you like Harry Potter stories?	ア① ア①	・正しく発音できているか確認し、適宜指導する。 ・本文の内容に興味を持つような質問内容にする。	
展開 (35)	3 Listening ○本文の聞き取り ○音読指導 ・教師の後に ついて読む。 ○音読練習 ・ペアで音読 の練習をする。 ○変換読み ・変換読みを 行う。	・教師の音読を聞いてプリント の空所に単語を書き入れる。 ・単語⇒チャンツ⇒文の順で、 ゆっくりと、正確にリピート する。 ・お互いが正しく読めるよう、 繰り返し練習する。 ・本文の 1 部が日本語になった プリントを使用し、音読する。	ウ① ア ① ② ア① ウ②	・リズムカルな音読につなげるため、ポイントとなる語を書き取らせる。 ・発音、アクセントに十分注意させ、繰り返し指導する。 ・机間指導でうまく読めない生徒を支援し、発音を正す。 ・日本語だけに取らわれず、意味のかたまりを意識して読むように指導する。	・ワーク シート 1 音読 シート 変換 読み シート
まとめ (5)	5 本文の書き取り	・本文から 1 文抜き出し、書き 取らせる。		・間接疑問を使った文を抜き出し指導計画 5 につなげる。	

【ワークシート 1】

Program 7-1 Listening Sheet

Hello, there. Did you () the ()?
Yes. Did you?
I did. I () all the Harry Potter ().
Harry is so (), isn't he?
I () so too.
Is this your () () to the U.K?
Yes. I've () been there ().
I () like Harry when he goes () to () magic.
I () how you ().
I felt the () on my () trip to Tokyo.
I went () as an () student.

*まず、CDの音声を2回、次に少しゆっくり教師が2回読み（聞き取りづらい所は更にゆっくりと）、計4回聞かせた。

*聞き取りづらい場所や聞き取れなかった場所をどう指導するかで次の音読指導がかわってくる。文法的な説明で補ったり、前後関係を説明したり、カタカナ表記で発音しやすくするなどの工夫が必要である。

【音読シート】

Program 7-1 Reading Sheet

Did you **enjoy** the **movie**?
I **love** all the **Harry Potter stories**.
Harry is **so cool**, isn't he?
I **think so too**.
Is **this** your **first visit** to the **U.K**?
I've **never** been **there before**.
I **feel like Harry** when he goes **off to learn magic**.
I **know how you feel**.
I **felt the same** on my **first trip to Tokyo**.
I **went** there as an **exchange student**.

*太文字の部分で手を叩いたりしてリズムをとり、リズムカルに音読の練習をする。

*単語からフレーズ、そして文へと上手くリズムを取り、流れをつかめないと失敗してしまう。教師の力が問われるところである。

【音読シート補助資料】

DID you enJOY the MOVie?

○ ○ ○ ○

I LOLE ALL the HARry Potter STOries.

○ ○ ○ ○

HARry is SO COOL, ISN'T he?

○ ○ ○ ○

I think SO TOO.

○ ○ ○ ○

Is THIS your FIRST VISIT to the u.K?

○ ○ ○ ○

I've NEVer been THERE beFORE.

○ ○ ○ ○

I FEEL like HARry when he goes OFF to LEARN MAGic.

○ ○ ○ ○ ○ ○

I KNOW how you FEEL.

○ ○ ○ ○

I FELT the SAME on my FIRST TRIP to TOKYO.

○ ○ ○ ○

I WENT there as an exCHANGE STUdent.

○ ○ ○ ○

リズム読みの時に、教師が使います。

*大文字は、強く読むべき音節

*○は手拍子などのリズムをとるところです。

【変換読みシート】 〈「大技・小技」 p. 100〜〉

Program7-1 Reading Sheet「変換読み」

Did you 楽しむ the 映画?

I love 全ての the Harry Potter 物語.

Harry is すごくカッコいい, isn't he?

私もそう思う.

Is this your 初めての訪問 to the U.K?

I've 一度も been there 以前に.

I ~のように感じる Harry when he 出発する to 学ぶ magic.

I know どのように you 感じる.

I felt the 同じ on my 初めての旅行 to Tokyo.

I went there as an 交換留学生.

①生徒 A は「音読シート」を読み、生徒 B は「変換シート」を見ながら聞く。AB 交代しながら練習する。

②生徒 A は「変換シート」を読み、生徒 B は「音読シート」で確認したりヒントを出したりして、スムーズに音読できるように練習する。

IV 研究の成果

1 生徒の変容

英語を「音読すること」への抵抗感が薄れてきた生徒が多い。特にリズムの取り方を工夫して（手拍子、片手を動かす、手で腿をたたく、首や体を振る、足でステップを踏む、ペンで机をたたくなど）練習したり、音読チェックを受けたりする生徒が多く、自然とリズムをとれるようになってきている。また、模擬授業で実施していただいた「ボクサー型」や「足踏み型」「散歩型」も生徒に好評だった。中には「音読の時間」を楽しみする生徒も多くなってきて、音読チェックでは早く合格しようと競うように練習している。英語らしい（かっこよく美しい）発音が「当たり前」になり、カタカナ読みをしてしまうと「あっ、まずい」と苦笑いする生徒も出てくるようになった。授業でのあいさつや発言での英語の発音にも気を遣う生徒も多くなってきた。

生徒の変容は、観察からだけでなく、データからもわかる。今年度の3年生のステップアップテストでは、6月に35%だった「英語が好き」な生徒が10月には41%に、また、6月に44%だった「英語の授業がよく分かる」生徒が10月には47%とわずかながら増加している。苦手意識が強く、市平均を下回っていた「聞くこと」に関しても市平均と同等になってきている。更に、「語順」を問う問題においても、6月には市平均を下回っていたが、10月には市平均を上回るまでとなった。

リズムを意識して音読することは、ただ音読するだけよりも、記憶に残るようである。音読指導の後には必ず dictation を行うが、リズムを取りながら書き取っている生徒も見受けられた。また、文字と音声のつながりを理解し、教師の口元をよく観察したり、自分で口を動かしたりしてスペルチェックをしている生徒もいた。更に音読シートを見ながら繰り返し音読しているので、自然とスペリングも頭に入っていくようで、スペリングミスも少なくなっている。

以上のことから、「適切な音声指導」が生徒の英語力を高める指導法として有効であると考えられる。

2 授業の変容

昨年度までの2年間はどうしても「書くこと」に偏り気味の授業であったが、「音声指導」を核にして、「聞くこと」「読む（読み取る）こと」「話すこと」「書くこと」をバランスよく授業の中に位置づけ、統合的に指導できるようになってきたと実感している。

「聞くこと」では、「stress-timed rhythm（強勢拍リズム）」を重点的に行うことで、当たり前のことではあるが、「はっきりと聞こえてくる語を聞き逃さない」ことに関連付けて指導することができた。それが聞く力の向上につながったと考える。

また、「読む（読み取る）こと」「書くこと」では、単語からフレーズ、フレーズから文へと「音声指導」を進めたことが、「意味のかたまり」を理解することにつながったようだ。すなわち、ポーズをどこでとって音読するのか、どこからどこまでが主文なのか、修飾部なのかなどの文構造の理解にも結びついたと考えられる。その結果、英文の趣旨を読み取る力や正しい語順で英文を書く力が向上したのではないだろうか。

「適切な音声指導」を核とした指導法は4技能をバランスよく指導することにつながり、生徒の確かな学力の定着を図る授業に役立つものである。

V 今後の課題

1 適切な音声指導について

「きちんとした発音」を生徒に求めるためには、教師自身の発音もきちんとしていなければ指導は成り立たない。私自身の発音はまだまだ曖昧で日本語的なものが多い上に、テンポが速く、声のトーンもどんどん高く大きくなってしまう。生徒にとってわかりやすく真似しやすい、「きちんとした発音」を心がけ、自らの発音技能を向上させることが、一番の課題である。

次に、課題と考えることは、音声指導で扱う教科書をベースにしたワークシート等の教材研究についてである。英文のどの単語を核にして「3つの強音節を持つフレーズ」を見つけ出し、どうリズムにはめ込むか、は教師の力を問われるところである。また、「音声指導」を通して、文の構造や意味を理解させるためにも、教師の英語力を磨き、向上させることが不可欠である。

2 生徒間発話を増大させるペアワークの構築について

ペアワークで生徒間の発話の質を高め、量の増大を図るには、ペアワークの前に行う一斉での音声指導が大きく影響すると考えられる。音声面、リズム面での達成目標（評価の規準）を明示することはもちろんだが、生徒がペアワークで何を目標に、どのように努力すればできるようになるのかを明示することが大切になってくる。

また、生徒の音声が規準に達しているかどうかを判断する教師の耳も鍛えなければならない。一斉指導、ペアワーク中、普段の授業から「非英語」に気づき、すぐに訂正できるかどうかで、ペアワークの質も変わってくる。

更に、ペアワークのやり方やワークシートの使い方は日本語を用いて、短く、分かりやすく説明することを心がけ、無駄な時間を省くことも必要である。もちろんワークシートの作り方を工夫し、どう使うかをしっかりと考慮すべきである。

最後に、生徒が努力した成果をしっかりとチェックし、具体的にどう評価するかが大きな課題である。きちんとした発音に対してきちんと評価を出し、それを積み重ねさせることで生徒の発音技能も向上するのではないだろうか。生徒自身が自分の成果をいつでも確認でき、更なる向上心につながるような評価カード等の作成を工夫し、ペアワークの質を高められるよう、更なる工夫・改善をすべきである。

<引用文献>

静 哲人 (2009) 「英語授業の心・技・体」(研究社)

静 哲人 (2009) 「英語授業の大技・小技」(研究社)